

大糸線利用実証事業（臨時バス増便事業）について

1 運行案

- ▶ 令和6年度のこれまでの実績を踏まえ、運行ルートを南小谷から白馬までのルートを観光地に直接アクセスするように変更した上で、7年度においても大糸線の潜在需要調査を引き続き行う。
- ▶ 糸魚川駅～南小谷駅は、これまでどおり大糸線沿線を行くが、南小谷以南については、観光地直結ルートとし、千国駅周辺から山側を運行し白馬乗鞍～ 柵池高原～ 白馬岩岳～白馬八方バスターミナルを経由するルートとする（なお、冬季ダイヤおよびルートは再度検討する）
- ▶ 本年度と同様、白馬交通及び糸魚川バスの2社で運行する

○大糸線臨時増便バス実証事業

＜総事業費：71,874,000円（対前年比：▲35,134,000円）＞

運行日数ある程度維持し、土日祝+季節運行として実施

- ・運行期間は、令和6年度からの継続を重視し、令和7年4月からとし、年度内いっぱいの運行を行う。
- ・運行日を絞り、土日祝+季節運行（242日）とする。
- ・令和6年度の利用実態を踏まえ、各方面最終便（第7便・第8便）は減便（4往復→3往復）し、運行は白馬交通：2往復、糸魚川バス：1往復を想定。
- ・柵池高原～白馬八方バスターミナル間について、糸魚川方面へは乗車のみ、白馬方面へは降車のみ可能とする。

○大糸線乗降調査

＜総事業費：21,423,600千円（対前年比：+3,503,000円）＞

新たな運行ルートにおける利用実態の把握や昨年度との比較検討のため、R7年度も調査を実施

- ・乗降調査（1か月間に4日間（木～日）計48日間調査を実施）
- ・ニーズ等を把握するためのアンケート調査等を引き続き実施

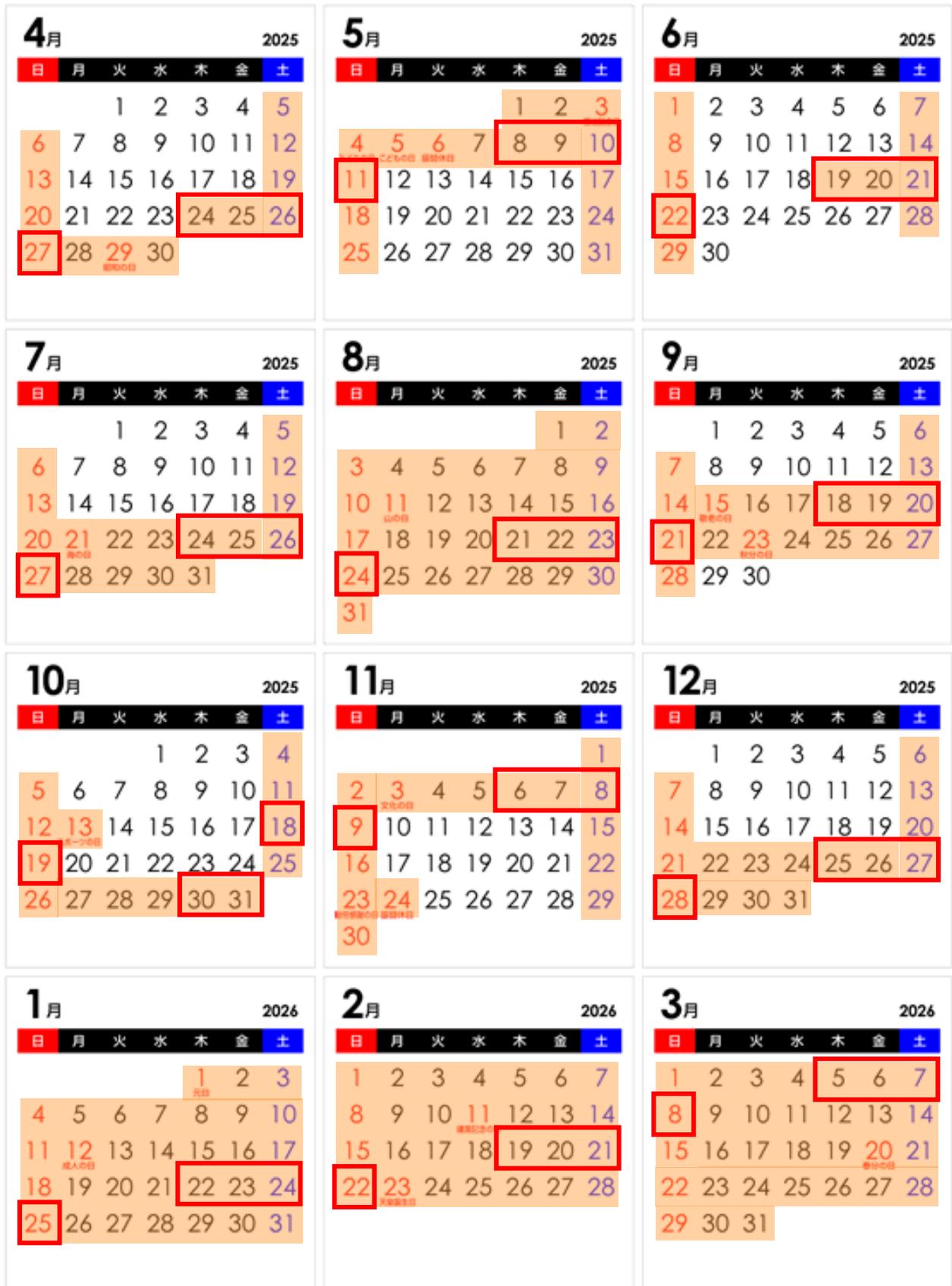
2 費用負担

(単位：円)		(単位：千円)		
費用負担内訳	運行+調査	自治体名	R6	R7
国庫補助	43,651,000	新潟県	11,000,000	7,000,000
JR西日本	27,244,300	長野県	11,000,000	7,000,000
沿線自治体 (両県・大町以北)	22,500,000	糸魚川市	3,000,000	3,000,000
		小谷村	2,500,000	2,000,000
		白馬村	2,500,000	2,000,000
合計	93,395,300 ≒93,297,600	大町市	2,000,000	1,500,000



運行ルートイメージ（赤色：改正案 黄色：現行）

R7 大系線増便バス 運行カレンダー



…運行日 …調査日